

国際人文学部国際交流学科カリキュラム・マップ

DP (教育目標)

- DP1 日本語、英語、選択した第二外国語を読み、書き、聞き、話すことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。  
 DP2 国際的な視野から、日本語と、日本の文化と社会を理解できる。  
 DP3 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働をおこなうために前提となる諸要素を理解することができる。  
 DP4 言語・文化・社会の多様性を認め、国際社会の課題を発見することができる。  
 DP5 自ら見出した課題について、適切な方法で情報収集・検討・考察し、その結果や自己の見解を、効果的な形で発表・活用することができる。  
 DP6 課題解決に向けて自ら考え、努力し、その過程を協調性やリーダーシップをもって他者と分かち合うことができる。  
 DP7 国際交流の知識とコミュニケーション能力を活用し、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	SDGs該当項目
キャリア形成科目群	基礎ゼミA	1	必修	「アカデミック・スキルズ」で学んだ自主的学習、大学生としての生活、大学の授業、資料調査、批判的読書、ライティング、発展的学習などについて復習し、補足事項や発展的内容を学ぶ。「アカデミック・スキルズ」ほか大学の学習および生活におけるさまざまなテーマについて、アドバイザー教員との質疑応答、教員およびアドバイザーグループでのディスカッションを行う。				○	◎	○		
	基礎ゼミB	2	必修	大学での学習に必要な基本的なスキルを学び、実際に読解、プレゼンテーション、レポート作成等に取り組む。				○	◎	○		
	基礎ゼミC	2	必修	国際交流学科教員による「ビジネスの基礎」と「就職活動の基礎」という授業で基礎知識を獲得し、さらに外部講師（就活支援専門家）による「就職準備ガイダンス」を通じて専門的な知見を得ることをねらいとする。A/Aセッションの他、ゼミ選択の回も設け、確かな進路選択を目指す。				○	◎	○		
	キャリア形成演習	2	必修	短期的視点から就活のノウハウを学ぶだけでなく、むしろ長期的視点からライフワークとしての開発協力・ボランティア活動に関心を持つ。肉体的労働力の提供だけでなく知的貢献を伴う開発協力・ボランティア活動もできる国際人を目指して、国際社会の基本構造とルール、国家、市民の役割などの基礎的な国際教養を身に着ける。			◎	○				4,8
	ビジネス入門	2	選択	ビジネスの入門科目として、財務諸表の読み方、マーケティング、イノベーション、株式会社の仕組み、戦略分析、国際経営に関して理解を深めていく。		○	◎	○				8
	航空・空港キャリア概論A	2	選択	主にエアラインビジネスの基礎である空港旅客業務やオペレーション業務（運航・整備等）などのフロントラインの仕事を中心にビジュアルな資料、データ、映像などに基づき解説する。次いで、航空ビジネスモデル（アライアンス・ネットワーク戦略・顧客戦略など）を通して航空産業の将来やその政策を見通せる基礎力を身を養う。			◎	○				
	航空・空港キャリア概論B	2	選択	主にエアラインビジネスの基礎である空港業務やオペレーション業務（運航管理・整備等）のフロントラインの仕事を中心にビジュアルな資料にもとづき解説する。厳しいグローバル競争にさらされている航空業界のビジネスモデル（アライアンス、ネットワーク、マイルージ、顧客戦略など）の基礎的知識の理解を深めることと併せて、今後の航空産業や将来の政策を見通せる基礎力を養う。			◎	○				
	航空・空港キャリア実習	2	選択	Students who qualify for this course attend a short-term internship at Chubu International Airport in Nagoya in February or March. While at the airport, students learn about the airport operations and more specially the role of ground staff. They receive practical training at the counters and gates as well.			○			○	◎	
	旅行・ホテル・観光キャリア概論	2	選択	人間の移動から生まれた産業（旅行業、ホテル業、観光業）全般についての知識を身に着ける。具体的には、旅行業、ホテル業、観光業のトレンドと今後の課題について学習し、観光について歴史的、理論的に理解を深め、将来、観光分野でのキャリアプランを描くための基礎を習得する。			◎	○				
学部コア科目群	留学プランニング	2	選択	本授業ではまず留学する意味や目的について学習し、続いて留学前の準備、留学志望理由書の作成、模擬面接の練習、留学先での過ごし方について学ぶ。最後に帰国後に留学した成果を継続的に維持する方法について考える。授業では、講義だけでなく、留学先について学生が調べ、授業でプレゼンテーションし、議論していく。			◎	○	○			
	国際コミュニケーション入門	2	選択	グローバルな視点からのコミュニケーションにおける様々な問題について熟考する機会を通して、ディスカッション、プレゼンテーション、コミュニケーションのスキルを開発する。	○		◎	○				
	異文化理解	2	選択	アメリカ・ヨーロッパ・ラテンアメリカ・アジア等の多文化社会のあり方と、それへの理解、そしてそこでのコミュニケーションや歴史的なネゴシエーションの特徴を学習する。それぞれの社会におけるマジョリティとマイノリティの間でのコミュニケーション・ネゴシエーションをめぐる問題を民族集団や社会経済的階層や世代・ジェンダー、さらには地域間格差に関連させて理解することを目指す。同時に、それらの特徴について日本社会および日本人との相違を、学生同士のディスカッションおよび異文化シミュレーションなどを通じて体験的に理解して、比較考察する。			○	◎				10
	世界の中の日本	2	選択	文化交流史と現代国際社会の事情などを基盤にして世界と日本の関係、「世界の中の日本」イメージまたは「日本の中の世界」イメージについて、主として日本とヨーロッパの文化交流の具体的な事例を通して、歴史的観点や現代的観点から議論する。		◎	○	○				



Business English Writing	2	選択	ビジネスのテーマに組み込まれた個々のライティングタスクを通して、英語のライティングスキルを向上させ、ビジネスの語彙と理解を深める。ビジネス環境でより良いコミュニケーションをとるのに役立つ新しい語彙、スキル、トピックを学ぶ。	◎		○	○							
Spoken Business English	2	選択	The primary goal of this course is to teach communicative competence. It is designed for learners who need to use English in the workplace and focuses on practical language for everyday purposes to achieve a reasonable degree of effectiveness in a variety of situations.	◎		○	○							
ドイツ語III	2	選択	ドイツ語初級に不可欠な文法事項（dieser型冠詞、mein型冠詞、分離動詞、命令形、接続詞、副文）を習得し、文法の進捗に合わせて簡単な日常会話ができるようになるために、ドイツ語での練習問題やパートナー会話の練習を行う。合わせて、ドイツの文化、都市、歴史に関する知識を深める。	◎		○	○							
ドイツ語IV	2	選択	ドイツ語初級に不可欠な文法事項（zu不定句、形容詞の原級、比較級、最上級、動詞の3基本形、過去形、現在完了）を習得し、文法の進捗に合わせて簡単な日常会話ができるようになるために、ドイツ語での練習問題やパートナー会話の練習を行う。合わせて、ドイツの文化、都市、歴史に関する知識を深める。	◎		○	○							
ドイツの言語・文化・社会 A	2	選択	(調整中)	◎		○	○							
ドイツの言語・文化・社会 B	2	選択	(調整中)	◎		○	○							
フランス語III	2	選択	フランス語の発話・作文能力を個人的な出来事以外のことも表現できるレベルにまで向上させるとともに、フランス語における時制のニュアンスを事実、予測、可能性の観点から認識させ、フランス語における批判的思考の重要性を理解させる。合わせて、フランスの歴史、フランス人のライフスタイル、習慣、生き方を理解し、自国の文化と比較できるようにさせる。	◎		○	○							
フランス語IV	2	選択	フランス語の発話・作文能力を個人的な出来事以外のことも表現できるレベルにまで向上させるとともに、フランス語における時制のニュアンスを事実、予測、可能性の観点から認識させ、フランス語における批判的思考の重要性を理解させる。合わせて、フランスの歴史、フランス人のライフスタイル、習慣、生き方を理解し、自国の文化と比較できるようにさせる。	◎		○	○							
フランスの言語・文化・社会 A	2	選択	Students should be able to comprehend and respond with increasing proficiency to spoken and written French, demonstrate nuanced cultural awareness and develop an appreciation of the relevance of analytical and critical thinking in French. There will be 13/14 face-to-face lessons. Students are expected to take ownership of learning; it is important that they complete the set tasks for each lesson and come to each lesson with adequate preparation and clear intent to learn.	◎		○	○							
フランスの言語・文化・社会 B	2	選択	The student should have studied French for five quarters or have past comparable/equivalent experience in learning the language for example from study abroad programs and/or self-study. The students should have developed an intermediate level of proficiency in French. Students needing extra support in terms of consolidation exercises or extension work are encouraged to talk to the teacher. This course focuses on the analytical and critical elements of the French language and culture. Upon completion, students should be able to comprehend and respond with increasing proficiency to spoken and written French, demonstrate sophisticated nuanced cultural awareness and develop an appreciation of the relevance of critical thinking in French (and more broadly Western) humanist traditions of learning. They will learn to become confident language learners who can be risk-takers and will be able to compare their own cultures and cultural spheres of reference (Japanese or others) with those of France and the Francophone world.	◎		○	○							
スペイン語III	2	選択	スペイン語I&IIで勉強した文法や単語を深める。DELE A1試験が合格できるようになることが目標である。	◎		○	○							
スペイン語IV	2	選択	スペイン語I&IIで勉強した文法や単語を深める。DELE A1試験が合格できるようになることが目標である。	◎		○	○							
スペインの言語・文化・社会 A	2	選択	(調整中)	◎		○	○							
スペインの言語・文化・社会 B	2	選択	(調整中)	◎		○	○							
中国語III	2	選択	既習の基礎的な単語や文法を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、日常生活に密接する場面で使う日常会話を繰り返し練習することによって、効率よく中国語の基礎力、コミュニケーション力を養成する。	◎		○	○							
中国語IV	2	選択	既習した文法、単語を復習しながら、新しい単語と文法を増やす。身の回りのことからSNSや社会問題まで、さまざまなテーマ文章を読んで中国語の表現を身につける。また実践的な会話練習を通して、既習した単語や文法を用いて中国語で伝えられるように工夫する。状況によって、中国語検定試験の練習を加え、試験対策を講じる。	◎		○	○							
中国の言語・文化・社会 A	2	選択	(調整中)	◎		○	○							

外国語科目群

中国の言語・文化・社会 B	2	選択	(調整中)	◎	○	○								
韓国語Ⅲ	2	選択	中級レベルの語学力を目指し、ハングル能力検定3級及びTOPIK2級以上の合格を目指して、関連語彙、文法、慣用句を含めて総合的に学習していく。	◎	○	○								
韓国語Ⅳ	2	選択	中級レベルの語学力を目指し、ハングル能力検定3級以上及びTOPIK3級以上の合格を目標とする。関連語彙、文法、慣用句を含めて総合的に学習していく。	◎	○	○								
韓国の言語・文化・社会 A	2	選択	韓国の文化全般の知識を学習し、様々な文化トピックスに合わせた語彙力と表現力を研鑽していく。授業では韓国語で説明を多く取り上げるため、中級以上の読解・語彙力とリスニング向上にも繋がる。履修者は、積極的に韓国語で発言し、合わせて異文化理解を深めていく。	◎	○	○								
韓国の言語・文化・社会 B	2	選択	2年次のS1の韓国の言語・文化・社会Aの知識を踏めて、韓国の社会・歴史全般の知識を学習し、様々なトピックスに合わせた語彙力と表現力を研鑽していく。授業では韓国語で説明を多く取り上げるため、中・上級以上の読解・語彙力とリスニング向上にも繋がる。履修者は、積極的に韓国語で発言し、合わせて異文化理解を深めていく。	◎	○	○								
ハンガリー語Ⅲ	2	選択	インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。	◎	○	○								
ハンガリー語Ⅳ	2	選択	インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。	◎	○	○								
ハンガリーの言語・文化・社会 A	2	選択	インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組も使用して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャー、映画とアニメと漫画の世界などに至る様々なテーマをピックアップして、ハンガリー語を楽しく勉強する。	◎	○	○								
ハンガリーの言語・文化・社会 B	2	選択	インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組も使用して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャー、映画とアニメと漫画の世界などに至る様々なテーマをピックアップして、ハンガリー語を楽しく勉強する。	◎	○	○								
ポーランド語Ⅲ	2	選択	ポーランド語の文法の基礎を学ぶ。発音にも細心の注意を払って、日常会話でよく使われる表現を身につける。自己紹介や自分の家族について話せる表現を使えるようにする。そのなかに年齢、職業、趣味に関する表現を覚える。普段の生活に必要な数字も早い段階で修得する。交通、病院、レストランや買い物など簡単に、実用的な会話表現をマスターする。合わせて、ポーランドの主要都市、民族衣装、迷信、伝統料理や習慣に関連する情報を提供し、ポーランドとポーランド文化に対する履修者の理解を深めていく。	◎	○	○								
ポーランド語Ⅳ	2	選択	ポーランド語の文法の基礎を学ぶ。発音にも細心の注意を払って、日常会話でよく使われる表現を身につける。自己紹介や自分の家族について話せる表現を使えるようにする。そのなかに年齢、職業、趣味に関する表現を覚える。普段の生活に必要な数字も早い段階で修得する。交通、病院、レストランや買い物など簡単に、実用的な会話表現をマスターする。合わせて、ポーランドの主要都市、民族衣装、迷信、伝統料理や習慣に関連する情報を提供し、ポーランドとポーランド文化に対する履修者の理解を深めていく。	◎	○	○								
ポーランドの言語・文化・社会 A	2	選択	地理的な観点から見るとポーランドはさまざまな国の影響を受けて発展してきた国家である。授業では歴史や文化を紹介をしながら、ポーランドへの理解を深めていく。この授業では用意された資料を使ってポーランド語を勉強する。さらにポーランドの社会を理解するために歴史、地理、政治や宗教への理解も深めていく。	◎	○	○								
ポーランドの言語・文化・社会 B	2	選択	地理的な観点から見るとポーランドはさまざまな国の影響を受けて発展してきた国家である。授業では歴史や文化を紹介をしながら、ポーランドへの理解を深めていく。この授業では用意された資料を使ってポーランド語を勉強する。さらにポーランドの社会を理解するために歴史、地理、政治や宗教への理解も深めていく。	◎	○	○								
チェコ語Ⅲ	2	選択	既習の文法を使用し、簡単な文章を書き、語彙を広げ、日常表現を覚え、チェコ語での会話を聴き、実際に話す練習をすることによって、会話力の基礎を固める。合わせて、チェコの現状やチェコの芸術、映画等の文化背景等についても学ぶ。	◎	○	○								
チェコ語Ⅳ	2	選択	既習の文法を使用し、簡単な文章を書き、語彙を広げ、日常表現を覚え、チェコ語での会話を聴き、実際に話す練習をすることによって、会話力の基礎を固める。合わせて、チェコの現状やチェコの芸術、映画等の文化背景等についても学ぶ。	◎	○	○								
チェコの言語・文化・社会 A	2	選択	教員が準備する教科書を基本に、チェコ語の授業を進める。今までチェコ語の文法、語彙、表現を復習して、新しい文法、語彙、表現に取り組む。チェコの文化、政治等について記事を読み、読解力の向上をめざす。	◎	○	○								
チェコの言語・文化・社会 B	2	選択	教員が準備する教科書を基本に、チェコ語の授業を進める。今までチェコ語の文法、語彙、表現を復習して、新しい文法、語彙、表現に取り組む。チェコの文化、政治等について記事を読み、読解力の向上をめざす。	◎	○	○								







国際開発論	2	選択	開発をめぐる多様な考え方について学ぶとともに、国際開発の主要課題である貧困や格差、教育、保健医療や環境問題などが起きている背景や、解決に向けての取り組みについて、持続可能な開発目標(SDGs)と関連づけながら考察する。また、日本がこれまでおこなってきた開発援助について概観し、今後のODAのあり方について検討する。さらに国際開発における多様なアクターにも着目し、開発パートナーシップの構築について考える。授業の後半では、「南」の国や地域で起きている諸問題が、私たちの日常生活といかに関係しているかを考察する。国際開発についてより複合的な視点を身につけるとともに、国際的な場で協働できる力を身につけていく。			◎	○						
国際関係論	2	選択	第一に、近代から現代に至るまでの国際関係の来歴を振り返る。第二に、その来歴と現代国際関係のイシューとの関連について知る。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。また、シラバスにはないが、時事問題について解説する場合もある。			◎	○						
アジア国際関係論	2	選択	まず、戦後アジアと冷戦の起源について学ぶ。次いで、西欧の東西対立とアジア各国の動向を歴史的に考察する。そして東南アジア諸国の独立過程を歴史的な流れから把握し、アメリカのベトナム戦争介入過程を解説する。また21世紀における東アジアの国際関係を考察する。なお本講義では、ドキュメンタリーや映画を通して、理解の促進を図る。			○	◎	○					
アメリカ対外関係論	2	選択	国の政治システム、なかでも対外政策の決定方法について学び概括的な知識を得る。次いで、米国の対外関係を、「歴史的記憶」「戦争」に着目して明らかにする。とくにパールハーバー攻撃とその歴史的記憶に着目して、攻撃以前の戦争の記憶がいかにアメリカ社会におけるパールハーバーの「聖像」の形成に関わったか、またパールハーバーの記憶がどのように戦中さらに戦後に利用されていったかを、アメリカの対外関係を参照しながら明らかにする。				◎	○					
中欧地域文化研究	2	選択	初めに、中欧とはどんな地域なのか、19世紀までどんな歴史をたどってきたのかを概観したうえで、19～20世紀の中欧の文化を見ていく。その際、中欧の地域としての共通性と個々の国や民族としても独自性に着目したい。映像が基本的な素材となるが、文学や音楽など関連領域も必要に応じて取り上げる。授業は、講義・映像鑑賞・ディスカッションを組み合わせた形で進める。				○	◎					
開発と女性	2	選択	女性やジェンダーという概念が、国際開発や国際協力の枠組みの中でどのように捉えられてきたか、またジェンダーの視点に立った開発はなぜ重要なのかを考え、理解を深めていく。開発と女性(WID)やジェンダーと開発(GAD)、ジェンダー主流化、ジェンダー分析といった概念や手法について学び、ジェンダー課題とその解決策について考える。また、日本が抱えるジェンダー課題についても取り上げ、ジェンダー平等に向けてのより体系的な理解と実践を目指す。				○	◎					5
文化交流史(日本:アジア)	2	選択	関連アジア諸国について概観し、日本との関係事象をあげて理解を深めていく。アジア諸国からみた日本と、日本からみたアジア諸国との歴史解釈の相違や文化・人物交流などに焦点を合わせていく。			○	○	◎					
文化交流史(日本:欧米)	2	選択	産業革命以降のヨーロッパの経済発展と人口変動に伴う文化交流史をテーマとする。人口変動に関する基礎的な概念や理論を理解する。人口変動の背景やその結果としての文化変容について理解を深める。近代以降のヨーロッパをはじめとする諸地域の人口移動について詳しく学ぶ。			○	○	◎					
日本文化論	2	選択	「日本人・日本文化論」のなかから、文化人類学・社会人類学者の2つの著作、すなわち、ルース・ベネディクト『菊と刀』、中根千枝『タテ社会の人間関係』を取り上げ、そこでの主張や一般に流布されている日本人・日本文化に対するイメージや言説を批判的に検討し、そこから現代の日本社会における「日本(の)文化」について考察する。			◎	○	○					
西洋美術	2	選択	西洋美術に関する基礎知識をつけ、専門性の基礎となる能力を養うために、絵画を中心とした西洋美術について、ルネサンス期から20世紀までの主要な芸術家を取りあげ、その生涯と作品について下記の計画に従って紹介する。新着のニュースや話題、研究などを紹介するために授業の順序・内容を適宜入れ替えることがある。				○	◎					
文化遺産	2	選択	まず、様々な民族誌的知見を理解するために必要な概念について学ぶ。次に先住民社会における「伝統の継承」に関する事例を検討し、文化を「遺産」として継承していくことについて考察を深めていく。さらに「世界遺産」の概念や制度を検討し、その中に含まれる多様な「遺産」の在り方について学んでいく。最後に「伝統」や「文化遺産」が現代社会やその未来に対して持ちうる意味や、それを維持し伝えていく意義について考察する。				○	◎					
国際法	2	選択	「国際法」とは、主に国家間関係を規律する法のことであるが、慣習法が多く存在するなど、その内容はわかりづらい。しかし、数多くの戦争を反省して人間が作ってきた、国際社会の平和のために必要不可欠なものである。本授業では、国際社会において「法」がどのような役割を果たしているのか、国際平和にどのように役立っているのか、という観点から国際法の基本構造と役割を学ぶことが目的である。国連を中心として国際社会の緊密化が進む現在、国際法が関係する範囲は多岐に及ぶが、その主たる分野を具体的に扱いたい。				◎	○					10,16
国際経済学	2	選択	前半を国際マクロ経済、後半を貿易論の理論的説明を行う。国際マクロ経済では、国際収支の見方を学び日本の経済構造の変化を読み取る力を身につける。国際収支を通して世界経済を概観し、経常収支の不均衡問題や経済発展における貿易構造の変化について考察する。さらに、為替レートの基礎知識を学び、国際経済体制の歴史的経緯と現在の国際経済問題の理解を深める。貿易論では、常に自由か保護かの選択の中で世界経済が揺れてきた事実を抑えながら理論的説明を試みる。また経済統合理論を利用して、FTAやEPAの経済効果について考える。そして、グローバル化の進展とともに資金も労働も移動する。これら生産要素の国家間移動の経済効果について理論を使って理解を深める。				◎	○					8,10



Multimedia Production	2	選択	マルチメディアのルール、ストラテジー、概念、制作、評価について学び、それらをビデオ制作編集のチームプロジェクトで実践する。メディア制作のスキルを獲得しながら、英語を用いたコミュニケーションおよび協働作業を実践する。				○	◎					
Images of Japan : Literature and Film	2	選択	Examination of contemporary literature from post-WWI to end of Heisei (1989-2019). The period contemporaneous with the Heisei period is also marked by enormous changes external to the imperial time system: economic shifts (to virtual stagnation), social shifts (the progressive demise of the modern family), technological/material shifts (the rise of the digital/internet age), and more. We will closely read texts with a mind to the process of making meaning of Heisei as emerging history.				◎	○	○				
Variable Topics in Culture and Society in Japan	2	選択	近世から近代にかけての日本人の主要な思想のいくつかを探究することによって、16世紀以来外国人が日本文化の多くの独自の側面を研究し、分析してきたが、日本人の考え方や行動を理解することは難しいことを理解し、現代の日本人の特徴的な行動を考察する。				◎	○	○				
Selected Topics in Japanese Manga and Animation	2	選択	This course views and analyzes Japanese animation from the early roots until recent times. The goal is to interpret each work carefully, placing it in socio-historical context. We will also discuss each work from a humanistic perspective.				◎	○	○				
言語学概論	2	選択	最初に、コミュニケーションの場面を考えることで、言語の記号としての性質と、言語の諸側面（音声、音韻、形態、文法、意味、コミュニケーション）を取り上げる。その後、音声学と音韻論では、言語音の諸側面を知り、音の作り方と分類を学ぶ。文法では、人称や時制、態など主な文法形式を扱う。意味論では、意味論の入門として、意味関係と多義語、類義語を実例から検討する。コミュニケーションについては、コミュニケーションにおける言葉の機能と発話行為、発話の意味について考える。					○	◎				
社会言語学	2	選択	ことばの変化と社会的要因の関わりを明らかにし、社会言語学の研究領域における主要なテーマに関して基礎的理解を深める。					○	◎				
言語学	2	選択	、認知意味論と語用論の基本概念とその諸例を学ぶ。認知意味論は、初めに認知意味論の考え方とカテゴリーについて学ぶ。その後、メタファー、メトニミー、シネクドキという意味の広がりをもたらす現象について例とともに考えていく。授業の後半は語用論で、主に発話行為とグライスの理論、ポライトネスを、日本語と英語の例をもとに考える。					○	◎				
英語学概論A	2	選択	音声学（個々の音声の特徴・発音法・音が連続する場合に起こる様々な現象）、形態論（単語の内部構造・造語法）を扱い、英語の背後に潜んでいるさまざまな規則性を見つけだし、英語の仕組みを明らかにする。また、英語史（英語の歴史の変遷、とくに発音や語彙や文法の歴史的变化）についても解説する。					○	◎				
英語学概論B	2	選択	統語論（句の構造・文の構造）、意味論（単語の意味・文の意味）を扱い、英語の背後に潜んでいるさまざまな規則性を見つけだし、英語の仕組みを明らかにする。英語に関する興味深い言語事実も提示し、これまでみなさんが習ってきた英文法の考え方を批判的に検証し、科学的な文法理論を紹介する。また、国際共通語としての英語の実態についても解説する。					○	◎				
言語・非言語コミュニケーション論	2	選択	身体動作、顔面表情、視線、空間行動等、様々な非言語的メッセージ（非言語コミュニケーション）について学習し、社会的交渉（説得）や対人援助の場面で活用することを目標に実践的に演習する機会を設ける。					◎	○				
第二言語習得論	2	選択	ディスカッションを交えながら第二言語習得の理論を学ぶ。まず、我々は言語をどのように処理し、記憶するのかを学ぶ。そして母語はどのように習得し、第二言語はどのように習得していくか概観していく。特にクラッシュの5つの仮説について概観したのち、母語の転移について学んでいく。					○	◎				
異文化間コミュニケーション論	2	選択	外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について基本的な理論をディスカッションしながら学んでいく。まず、異文化間コミュニケーションとは何かを理解し、西洋・東洋文化と比較しながらディスカッションを中心に学んでいく。次いで、多様な文化的背景を持った留学生との授業外での交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的にも学び、理論と実態を結びつけ学んでいく。さらに、英語が使われている国・地域の文化を通じて、表現力（言語と非言語）への理解を深め、言語教育の授業に資する知見を身に付ける。					◎	○				10
異文化適応論	2	選択	文化の異なる人々と友好かつ建設的にコミュニケーションするために、いかに文化的背景が重要か、さらに、どのように影響を及ぼすのかを中心に、異文化適応について学ぶ。多くの例を用い、ディスカッションを通じてより理解を深めるようにする。					◎	○				
翻訳の基礎（英日）	2	選択	英文和訳とくに日本語使用者が誤りやすい項目を中心に、具体的な例文で翻訳作業を実施し、まずは文法的に正確であり、さらに正確でありながら直訳は避けて自然な日本語の訳文として訳せるように、基本的な翻訳スキルを習得する。					○	◎				
児童英語教授法Ⅰ	2	選択	はじめに英語教授法の歴史を概観し、日本の小学3・4年生に適した外国語教授法を理解する。その上で、グループで授業を想定したカリキュラム、教材や歌を作成し、発表をすることで英語教授法を体得する。					○	○			◎	4

児童英語教授法II	2	選択	はじめに英語教授法の歴史を概観したうえで、小学生高学年に適した英語教授法を学ぶ。そのうえで、グループで授業を想定したカリキュラムや年間指導計画、教材やゲーム作りなどを、講義やモデル授業のDVDをとおして学んでいく。また、その成果をグループで実践することで体得し、さらに理解を深める。				○	○			◎	4
英米児童文学A	2	選択	初めに、イギリスの主要な児童文学作品の歴史的概観を学ぶ。そのうえで'The Merchant of Venice'を取り上げ、受講者で分担して読み進める。担当者は原書を訳すだけでなく、作品の見どころや作品に流れる精神や時代的背景についても発表する。				○	◎				
英米児童文学B	2	選択	初めに、アメリカの主要な児童文学作品の概観を学ぶ。そのうえで'Adventures of Huckleberry Finn'を取り上げ、受講者で分担して発表する。担当者は原書を訳し、作品の見どころや作品に流れる精神や時代的背景についても触れることが求められる。その発表をもとに全員でディスカッションをし、内容の面白さや作品に流れる思想、歴史的背景の学びを深めていく。				○	◎				
発達心理学	2	選択	発達心理学における主要なトピックを中心に概説し、基本的概念および知識を習得することをねらいとしている。その際、胎児期から老年期にわたる各時期における発達の特徴について理解を深めながら、自分は現在までにいかにして自分となり、そしてこれからどうなるのかという受講者自身の発達の軌跡について洞察を深める手だてを得る。また、子どもの発達に関して近年注目を集める「養育者の役割」「虐待」「発達障害」といったトピックについては、実際の事例を交えながら詳しく紹介していく。				○	◎				
International Communication	2	選択	In this course students will be discussing issues related to international understanding and international communication based on the personal experiences and the readings distributed in class.	○			◎	○				10
Language Acquisition	2	選択	語学学習および教育について積極的に話し合うとともに、授業計画と模擬授業を通じて、英語の教え方を学び、実践することによって、外国語がどのように習得されるか、いかにして外国語として英語を教えるかについての知識を向上させ、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの言語スキルを育成させるとともに、さまざまな方法とテクニックを分析して流暢さと正確さを向上させる。	○			◎	○				
English Project Education A	2	選択	This program aims to introduce students to the news media as how its practitioners work to provide a record of events, and as how their work is viewed by society at large. To gain an understanding of both these aspects of the news profession, students will view 12 iconic films about the news business and its practitioners.	○			○				◎	
English Project Education B	2	選択	This is a course for students who would like to assist with the English Mentoring Program. Students should be available in the Center for Language Education at least two periods a week to assist students who come for help with homework, pronunciation practice or studying skills. The Program This is a course for students who would like to assist with the English Mentoring Program. Students should be available in the Center for Language Education at least two periods a week to assist students who come for help with homework, pronunciation practice or studying skills. The Program gives the students the opportunity to improve their own English language and their teaching skills.  Students will be asked to write stories and to make presentations in class on media-related subjects.	○			○				◎	
Mentor Program I	2	選択	This is a course for students who would like to assist with the English Mentoring Program. Students should be available in the Center for Language Education at least two periods a week to assist students who come for help with homework, pronunciation practice or studying skills. The Program gives the students the opportunity to improve their own English language and their teaching skills.	○			○				◎	
Mentor Program II	2	選択	This is a course for students who would like to assist with the English Mentoring Program. Students should be available in the Center for Language Education at least two periods a week to assist students who come for help with homework, pronunciation practice or studying skills. The Program gives the students the opportunity to improve their own English language and their teaching skills.	○			○				◎	
English Teaching Methodology I	2	選択	地元の小学校で教える英語のレッスンを計画し、準備し、子供たちに提示する手順を直接体験することによって、幼児（幼稚園から小学校）に外国語を教えるための原則を学ぶ。チームに分かれて、年齢に応じた授業内容の決定、研究活動、小学校で使用する教材の準備を行う。実習日に生徒は授業を行い、翌週に教員からフィードバックを得る。	○			◎	○				
English Teaching Methodology II	2	選択	地元の小学校で教える英語のレッスンを計画し、準備し、子供たちに提示する手順を直接体験することによって、幼児（幼稚園から小学校）に外国語を教えるための原則を学ぶ。チームに分かれて、年齢に応じた授業内容の決定、研究活動、小学校で使用する教材の準備を行う。実習日に生徒は授業を行い、翌週に教員からフィードバックを得る。	○			◎	○				
Oral English for Children A	2	選択	児童英語教授法の歴史を概観し、日本の児童に適した外国語教授法（TPRやConsent-based Approach、Multiple Intelligencesなど）の理論を学ぶ。そのうえで、グループで授業カリキュラム、ゲームや歌などの教材を作成し、発表することで教育現場での実践力を養う。	○			○				◎	4

	Oral English for Children B	2	選択	英語教授法を学び、そして具体的な子供のための英語の授業の例をあげつつ、問題点、改善すべき点、良かった点を等検証する。後半授業は、学生による子供のための英語の授業を行ってもらう。	○	○	○	○	○	◎	4
	Presentation Skills	2	選択	このコースの目標は、学生にさまざまな状況でプレゼンテーションを行うための戦略と自信を与えることです。自信を持って自分の考えを明確かつ効果的な方法で提示するために必要なツールと実践機会を提供するために、さまざまなプレゼンテーション形式を使用して、さまざまなトピックについて準備し、プレゼンテーションを行うタスクを課す。それによって、ストラテジーを構築し、幅広い目的のプレゼンテーションに必要なスキルを身につける。	○	○	○	○	○	◎	4
専 門 科 目 群 Ⅲ ( 日 本 語 教 員 養 成 )	日本語学概論A	2	選択	日本語学の基礎知識を広く学ぶ。初めに、日本語の系統や「共通語」と「標準語」の概念などを学ぶ。その後、語の形（音声と音韻）、その表記（文字と表記）、意味、待遇表現について基礎的な概念を学ぶ。		○	○	○	○	◎	4
	日本語学概論B	2	選択	日本語学の基礎知識を広く学ぶ。形態論・語彙論として、語構成と造語法、語種、語彙量などを学ぶ。文法の諸概念のうち、態と授受表現、テンス・アスペクト・モダリティー、主題と取り立て、連用修飾と連体修飾を学ぶ。言語と社会に関わる分野から、種々の位相語について学ぶ。		○	○	○	○	◎	4
	日本語の音声	2	選択	日本語教育のための音韻・音声体系を学ぶ。日本語の音声に関する理論や知識を受動的に学ぶのではなく、自分自身の音声を客観的に観察し、内省することを通じて音声学の知識を身につける。教員による講義だけでなく、ペア活動やグループディスカッションなどの演習形式で授業を進める。		○	○	○	○	◎	4
	日本語の語彙・意味	2	選択	日本語の語彙を、語の内部構成や意味、語彙の体系、計量的分析などの視点から概観する。語彙をこれらの視点から考えることで、日本語の語彙・意味のさまざまな面を理解し、日常的な表現を自分で分析したり説明したりできるようにする。		○	○	○	○	◎	4
	日本語の文法A	2	選択	国語教師になるための国語文法（学校文法）を理解すること、また、自分たちの頭の中に備わっている母語（日本語）を見つめ直すことによって、言葉に対する分析力や論理的思考力を養うことを目的とする。母語は無意識のうちに獲得してしまうため、外国語として学ぶ英語と違い、言葉の規則をうまく説明できないことが多い。そのため、学校文法を鵜呑みにして暗記するだけになってしまいがちだが、自分が学んできた学校文法を批判的に見直すことで疑問点を見つけ、外国語としての日本語教育における文法も視野に置きつつ、疑問点を論理的に解明していく。		○	○	○	○	◎	4
	日本語の文法B	2	選択	外国人に日本語を教えるための日本語文法を学ぶ。まず、形容詞や動詞などの品詞、活用、文の特徴と種類、文の成分などを学ぶと同時に日本語学習者がどのように文法を学ぶのか、初級日本語の教科書からも概観する。そして、得た知識を基に実践的な文法の教え方について考える。また、テンス、アスペクト、ヴォイスなどは日本語教科書でどのように教えられているのか、簡単に概観する。		○	○	○	○	◎	4
	日本語教授法（教授法）	2	選択	日本語教授法の背景となる外国語教授法の数々を歴史の流れに沿った順序で理論とビデオで学ぶ。そして、日本語教育への応用を考える。また、デモンストレーションを通じて具体的に学んでいく。授業では、日本語教授法に基づき具体的に練習をしてみる。それぞれの教授法では、まず、言語理論と学習理論を学び、デモンストレーションやビデオを通して実践力も養う。TPR、ナチュラルアプローチ、CLL、VT法、などの教授法は、知識だけではなく、実践力も身につける。		○	○	○	○	◎	4
	日本語教授法（コースデザイン・評価）	2	選択	前半はコースデザインの概要を学び、学習者に合わせた目標、シラバス、スケジュール、教材、授業方法をどのように決めていくかを理解し、最後に仮想のコースデザインを作成してみる。後半は学習評価の基礎について学びながら、実際にどのような評価方法があるか、事例を見ながら理解を深め、仮想のテストを作成して理解を確認する。		○	○	○	○	◎	4
	日本語教授法（教材・教具）	2	選択	教材の分析はレベル別の教材、技能別の教材、マルチメディア教材を含む視聴覚教材などの分析と作成を行う。そして、実際に教案を立て、教材を作成して発表してもらう。また、従来の教材開発に加え、これからの日本語教育に必要とされるテクノロジーを活用した教材開発についても学習する。		○	○	○	○	◎	4
	日本語教育事情	2	選択	日本語教育の5区分のうち、社会・文化・地域に関わることについて学ぶ。世界と日本の日本語教育事情については、その実例を、教員作成のDVD（ゲスト講師に対する教員のインタビュー）を聞きながら学ぶ。国内外の日本語教育の動向を概観し、今後日本語教育は国境を越えて、どのように広がっていくのか、自らがどのように関わっていくのかを考察する。		○	○	○	○	◎	4
日本語教育実習Ⅰ	2	選択	日本語教育実習を行うために、教案の立て方、教材の選び方など実践的に学ぶ科目である。まず、ディスカッションをしながら実際の授業の流れを学ぶ。次に、実際の日本語初級教科書を使用して、教案の立て方や授業の導入の仕方などの具体的な教授法を学ぶ。その後、授業見学、模擬授業、授業評価という流れで学内実習を進める。授業評価では、受講生どうしで意見を交換しながら授業を振り返り、日本語教育実習に役立てる。これらの積み重ねによって、すぐに教育現場で日本語を教えられる力を身につける。		○	○	○	○	◎	4	

	日本語教育実習Ⅱ	2	選択	日本語教員養成に関わる専門知識・スキルと異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに日本語教育に関する理解とその実践を目指す。この授業の到達目標は、日本語を教える実践力の養成である。授業見学や実践を通して日本語教育プログラムの理解と実践を学び、教室・言語環境の設定を学ぶ。最終的には、学生が自分で教材を分析し、教案・教材を作成し、教育実習ができることを目指す。また、この授業での学内日本語教育実習を終え、学外でも日本語を教えることができるような実践力を身につける。学期末にはいくつかの教案作成の中から2つ以上の推敲された教案の提出がある。また、模擬授業、実習など実践的な活動が始まる。また、教室の設定や言語環境なども考慮に入れ、実習を行う。そして、その際に授業を分析し、自己点検能力が身に付くように指導する。							○	○		◎		4	
専門科目群Ⅳ (ゼミ研修・実践)	国際交流演習Ⅰ	2	必修	本科目は、3年生を対象とし、国際的な場で活躍できる人材を目指し、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めることを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく(1)言語、(2)国際関係・国際開発・国際協力、(3)異文化理解の3つがある。										◎	○	○	
	国際交流演習Ⅱ	2	必修	本科目は、3年生を対象とし、国際的な場で活躍できる人材を目指し、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めることを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく(1)言語、(2)国際関係・国際開発・国際協力、(3)異文化理解の3つがある。										◎	○	○	
	国際交流演習Ⅲ	2	必修	本科目は、4年生を対象とし、国際交流演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容に基づいて研究を進め、国際的な場で活躍できる人材を目指し、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めることを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく(1)言語、(2)国際関係・国際開発・国際協力、(3)異文化理解の3つがある。										◎	○	○	
	国際交流演習Ⅳ	2	必修	本科目は、4年生を対象とし、国際交流演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容に基づいて研究を進め、国際的な場で活躍できる人材を目指し、少人数クラスの演習形式で、専門的な知識を深めることを目的とする。演習で学ぶ内容は大きく(1)言語、(2)国際関係・国際開発・国際協力、(3)異文化理解の3つがある。										◎	○	○	
	国際交流研修A	2	選択	海外で実際に国際交流のスキルを向上させるための研修である。渡航先それぞれの現地の事情・生活環境・文化を深く理解し、英語や他の外国語の能力を高め、円滑なコミュニケーションが図れるようにする。									○		○	◎	
	国際交流研修B	2	選択	海外で実際に国際交流のスキルを向上させるための研修である。渡航先それぞれの現地の事情・生活環境・文化を深く理解し、英語や他の外国語の能力を高め、円滑なコミュニケーションが図れるようにする。									○		○	◎	
	国際交流研修C	2	選択	海外で実際に国際交流のスキルを向上させるための研修である。渡航先それぞれの現地の事情・生活環境・文化を深く理解し、英語や他の外国語の能力を高め、円滑なコミュニケーションが図れるようにする。									○		○	◎	
	コミュニケーション・インターンシップ	3	選択	事前講義では30コマの事前学習として準備を行う。主に教材作成、教案作成と実習リハーサルを出発前に行う。また、研修中は、訪問先の日本語学習者との交流を積極的に行う。リハーサルで十分に練習を重ねた上で実習を行うので事前講義の参加が義務づけられる。各実習はグループ毎にわかれて実習を行う。実習後は、反省会を行い、お互いの授業についてディスカッションし、よりよい実習ができるよう心がける。また、週末は、日本語学習者たちと交流しながら市内を視察し、外国の文化も学ぶ。研修からの帰国後の事後学習では、成果発表のための準備を行う。そして冊子を作成する。										○	◎	○	
	卒業論文	4	選択	卒業論文とは、演習における研究指導の成果を基にして、学生各自が自らの独自の研究・調査を学術論文の形式に従ってまとめるものである。国際交流学科においては卒業論文は選択科目であるが、卒業論文を履修した学生は演習担当教員(必要に応じて副査教員)より、論文作成の指導を受けることになる。											◎	○	
卒業制作	4	選択	卒業制作とは、演習における研究指導の成果を基にして、学生各自が自らの独自の研究・調査を成果物としてまとめるものである。卒業制作を履修した学生は演習担当教員より、制作の指導を受けることになる。											◎	○		
教育原理	2	自由	教育とは何か、その語源をささげつつ、教育とは歴史的にどのように存在し現代にいたっているか、また21世紀社会においてどうあるべきか、問題関心を共有しつつアプローチしていきたい。なかでも近代日本における教育の歴史的発展をおさえつつ、さらに現代教育の骨格を形成している日本国憲法のもとで行われた戦後教育改革の意義と内容について正確な把握を行ってみたい。あわせて現代教育の政策的課題や学習と学校の今後の在り方についても考察を加えていきたい。同時に世界に目を転じて、西欧近代から現代への教育と教育思想の歴史的発展をおさえつつ、現代世界に受容されている「生涯学習論」の内実と意義を確認しつつ、OECDの国際学力調査の動向や欧米における教育改革の進展についても考察を加えていく計画である。									○			◎		4
教育課程論	2	自由	学校の教育課程(カリキュラム)の国家的・大綱的基準である学習指導要領の中心的内容(基本方針、特徴等)について、多角的に展望するための基礎的な知識や概念について概観する。この授業については、現代日本の教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念、日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴、近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題について学習する。あわせて、それを基盤的に支える思想やそれに関連する基礎的な知識・理論、学校・地域の実態や教育改革の諸動向を踏まえつつ、学校現場において教育課程を編成・実施・評価・改善するための基本的な視点と実践力の基礎を身につけられるように展開していく。								○	○			◎		4



総合的な学習の時間の指導法	2	自由	各教科等の学びを横断的・総合的に探究し、自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間の特徴を踏まえ、往還的な探究学習を展開するために必要な知識・理論、具体的な指導計画・授業における指導方法などを理解する。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質能力の育成を目指すものである。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導方法並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けるよう具体的な事例を通して、考察していく。							○		◎	4
特別活動論	2	自由	日本の学校教育において、特別活動はキャリア教育の要として教育課程に位置付けられている。生徒の全人的な成長を促すための教育活動の一つとして、特別活動は重要な役割を担っている。特別活動の教育的な理念を踏まえ、生徒を指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解する。特別活動は学校における多様な集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である。特別活動の教育的な意義を理解し、学習指導要領改訂の三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応等、特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付けるよう具体的な事例を通して、考察していく。							○		◎	4
生徒指導（進路指導の理論および方法を含む）	2	自由	生徒指導は、生徒に対する総合的な指導であり、教育活動上、重要な位置をしめる。そのため、文部科学省は、教員への助言として生徒指導の基本原則や基本的事項・心得をまとめた「生徒指導提要」（平成22年3月。文部科学省）を発行するとともに、それをもとにした実践を期待した。そこで、本授業では「生徒指導提要」の概略の理解を第一義とし、さらに、生徒指導の実践に対する深い見識を持つことを目標とした。また、この中には進路指導・キャリア教育も含まれるため、それらについても理解を深める。							○	○	◎	4
教育相談（カウンセリングを含む）	2	自由	現代の学校でおきている不登校、いじめ、非行などの問題を通して、思春期・青年期にある生徒に特有の心の特性を、教師として受容的・共感的に理解し、自ら乗り越えることを通して人格的成長を促す関わり、態度を養う。また、教育相談の理論的・技術的な基本となるカウンセリングの理論と方法を学習し、生徒の相談に応じるための聴き方、傾聴的関わりを実践できることをめざす。さらにカウンセリングの基本となる考え方を自らの教育実践に生かすことのできる教師になることを期待している。							○	○	◎	4
介護等体験	2	自由	この授業は、特別支援学校及び社会福祉施設での介護等体験とその事前・事後指導で構成される。この授業の目標は教員として必要な人間関係能力を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する認識を深めることである。そのため、特別支援学校の児童・生徒及び社会福祉施設の利用者などのさまざまな人々の生き方、相手の立場を尊重した接し方など、互いを尊重した人間同士のコミュニケーションを通して教師としての在り方を模索する。また、特別支援学校及び社会福祉施設での実習を通して、教員を目指す者として人間の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることを目指す。							○	○	◎	4
教育実習Ⅰ（事前および事後指導を含む）	2	自由	教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえて教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。							○	○	◎	4
教育実習Ⅱ	2	自由	教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえて教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。							○	○	◎	4
教職実践演習（中・高）	2	自由	この授業は教職課程の総まとめの科目であり、これまでに学んだ教職に関する知識、専門教科に関する知識、そして教育実習で得た経験、さらに教職インターンシップや学習チューター等で得た知識・技能を統合して、振り返りをおこなっていく。将来、教員としての責務を果たすために求められる教育実践において補わなければならない点を認識し、それを補い、発展させるために模擬授業、フィールドワーク、グループ討論等を通して学び身に付けて、学校現場で活躍できる教員を目指す。							○	○	◎	4

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

#### SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」

16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナーシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」